

書く系統表 2



1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
	いくつあつめられるかな (伝えたいことをメモに書き出し、メモのよさに気づく)	くらべてみよう (共通点と相違点を考える)	グループでまとめて整理しよう (テーマに沿って考えたことをカードに書き出し、カードを類別して図に整理する)	事実と考えを区別しよう (グラフから読み取った事実と、その事実から考えたことを区別して表に書き出す)	原因と結果に着目しよう (絵に表された出来事について、原因と結果の関係をはっきりさせて文章に表す)
こんなことしたよ (家族に伝える)	こんなことをしているよ (組み立てを考える)	調べて書こう、わたしのレポート (調べてわかったことを伝える)	みんなで新聞を作ろう (知らせたいことを伝える)	環境問題について報告しよう (資料を活用して報告する)	防災ポスターを作ろう (表現の効果を考えて報告する)
絵日記を書こう (みんなに知らせる)	観察したことを書こう (観察して書く)			和の文化について調べよう (資料をつかって説明する)	
	遊び方を説明しよう (説明する文章を書く)				
発見したよ (よく見て書く)	同じところ、違うところ (比べてわかったことを書く)	自分の考えを伝えよう (自分の考えとその理由を書く)	「ふるさとのお食」を伝えよう (理由や事例を挙げる)	反対の立場を考えて意見文を書こう (反対意見を考える)	世界に目を向けて意見文を書こう (説得力のある意見文を書く)
思い出して書こう (順序に気をつける)	この人を紹介します (紹介する文章を書く)				
お話を書こう (人物を考える)	絵を見てお話を書こう (つながりを考える)	想像を広げて物語を書こう (設定を考える)	山場のある物語を書こう (組み立てを考える)		
言葉遊び歌を作ろう (擬声語や擬態語を使う)		心が動いたことを詩で表そう (心の動きを表す)		心が動いたことを三十一音で表そう (発見や感動を短歌で表す)	心が動いたことを十七音で表そう (発見や感動を俳句で表す)
	ありがとうを伝えよう (手紙を書く)	案内の手紙を書こう (大事なことを伝える)	お願いやお礼の手紙を書こう (相手や目的を考える)		
1年間をふりかえろう (書いた文章を読み返す)	「ことばのアルバム」をつくろう (文章のよいところを見つける)	「わたしのベストブック」をつくろう (文章のよいところを伝え合う)	「言葉のタイムカプセル」を残そう (文章のよいところを確かめる)	「わたしの文章見本帳」を作ろう (文章のよさを見つけて生かす)	「卒業文集」を作ろう (思いを伝える文章を書く)

低学年

- 主語と述語との関係に気づく
- 長音（のばす音）、拗音「ゃ」「ゅ」「ょ」、促音「っ」、撥音などの表記を理解して使う
- 助詞「が」「は」「へ」「を」の使い方を理解して使う
- 句読点「、」「。」「。」の打ち方を理解して使う
- ひらがなとカタカナを理解して使う
- 会話文「 」の書き方がわかる
- 横書きの時の書き方がわかる
- 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで書く
- 原稿用紙の使い方がわかる

文字は一マスに一字書く。

はじめに、上から二字あけて題を書く。

姓と名の間は一字あける。

名前は下から一字あける。

書きはじめは一マスあける。

行を変えたら一マスあける。

話した言葉は、行をかえて「 」を使って書く。

会話文が二行以上続く場合は、二行目以降は行頭から一字あけて書く。

話した言葉の終わりの丸とかぎ 。」 は、同じマスの中に書く。

丸や点（句読点）は、行のはじめに来ないように、最後のマスに、文字と一緒に書く。

中学年

- 主語と述語との関係を理解する
- 修飾（くわしく表す言葉）と被修飾との関係を理解する
- 指示する語句（こそあど言葉）の役割がわかる
- 接続する語句の役割（つなぐ言葉の働き）がわかる
- 段落の役割がわかる
- 常体と敬体を統一させて書く
- 改行の仕方を理解して使う
- 簡単な単語のローマ字を読んで書く

高学年

- 敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）を理解し、使い慣れる
- 比喩や反復などの表現の工夫に気づく
- 「序論」「本論」「結論」の組み立てで書く

いろいろな表現の工夫を使って文や文章が書けるといいですね。

比喩（暗喩と直喩）

言葉のくりかえし

順番の入れ替え（倒置法）

体言止め

疑問文で書きだす

オノマトペで書きだす

会話文で書きだす



低学年

経験報告

観察記録

日記

手紙

かんたんな物語

中学年

調べたことの報告

行事の案内文

お礼の手紙

詩

物語

高学年

事象の説明意見

短歌

俳句

事実や経験を基に感じたり
考えたり自分にとっての意味



つきたい力が育まれる活動か、子どもたちが主体的に相手意識や目的意識をもって活動できるか、探究的な課題であるかなど考えて言語活動を設定します。